

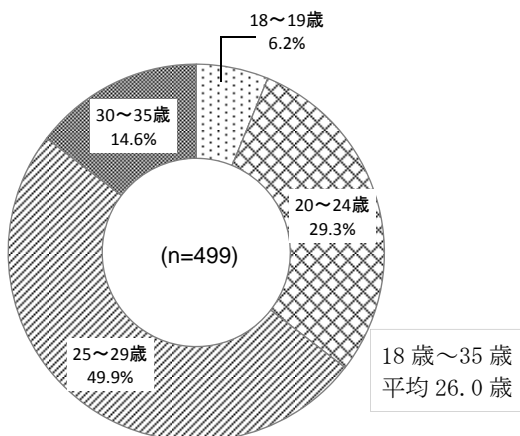
# 調査結果

## 1. 回答者の属性

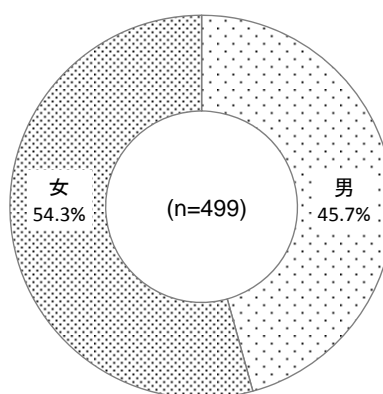
### (1) 現在の状況

- ・年齢：回答者の年齢については、18歳～35歳であるが、20歳代の回答者が全体の79.2%である。
- ・性別：女性が54.3%、男性が45.7%となっている。なお、男女別の平均年齢等については、巻末の「資料」に記載している。
- ・現在の職業（問1）：「勤め人（正社員41.7%、公務員・公社などの正規職員3.4%）」が45.1%、「パートタイマー等」は16.4%、「学生」は16.4%となっている。
- ・最終学歴（在学中の回答者は在学中の学校）（問2）：「大学」が49.9%と約半数を占めている。次いで「高校」（21.2%）、「専門学校」（13.8%）となっている。
- ・婚姻状況（問3）：「未婚」が59.3%で過半数を占めている。「既婚」は37.9%となっている。

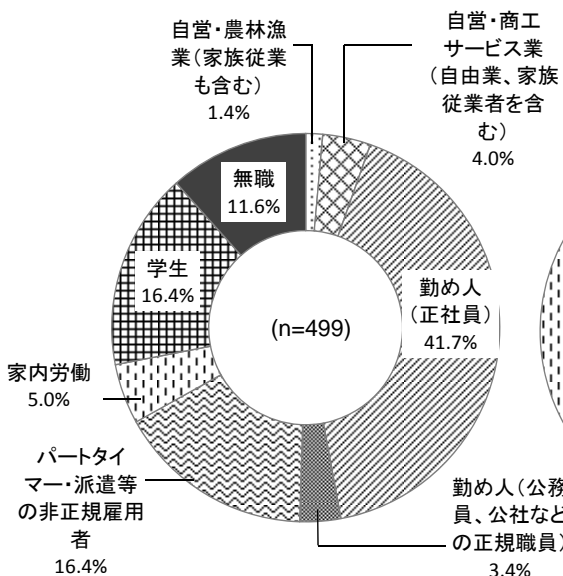
図表 6-1-1 現在の年齢



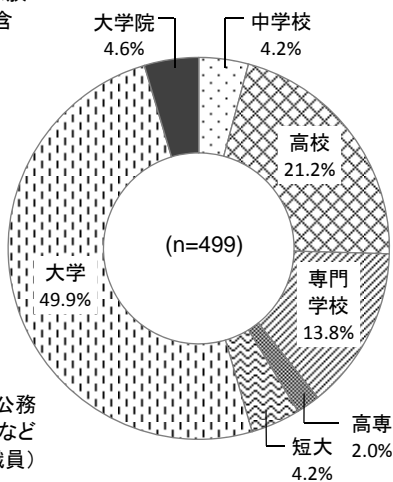
図表 6-1-2 性別



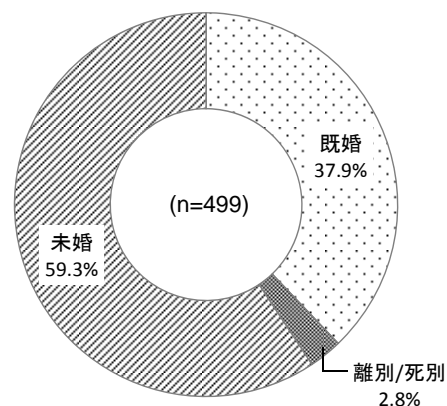
図表 6-1-3 現在の職業



図表 6-1-4 最終学歴（または在学中の学校）



図表 6-1-5 婚姻状況

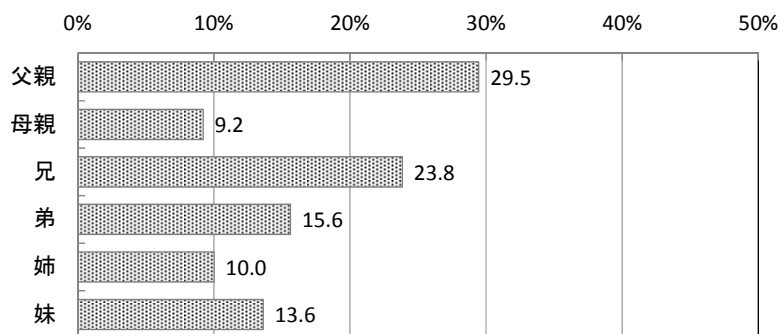


## (2) 事故当時の状況

### 亡くした家族の続柄 (問6)

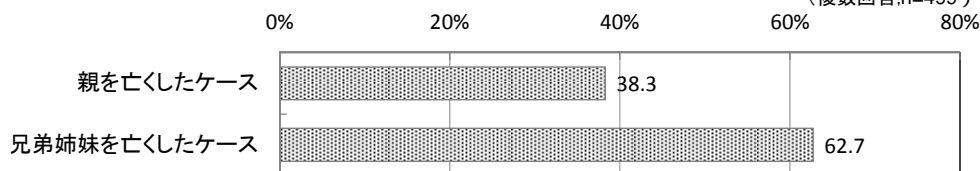
事故で亡くなった家族の続柄は、「父」が最も多く 29.5%であり、次いで「兄」(23.8%)、「弟」(15.6%)となっている。

図表 6-1-6 亡くした家族の続柄 (複数回答,n=499)



また、亡くなった方の中に父親もしくは母親がいるケースを「親を亡くしたケース」とし、亡くなった方の中に兄もしくは弟、姉、妹がいるケースを「兄弟姉妹を亡くしたケース」として抽出したところ、「親を亡くしたケース」が全体の 38.3% (191 名)、「兄弟姉妹を亡くしたケース」が 62.7% (313 名)となっている。なお、親を亡くした場合は、「父母両方」を亡くしているケースがあり、兄弟姉妹についても複数亡くしているケースがあるため、上記グラフの割合の合計とは一致しない。また、親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、図 6-7 のグラフの値の合計は 100%超となっている。

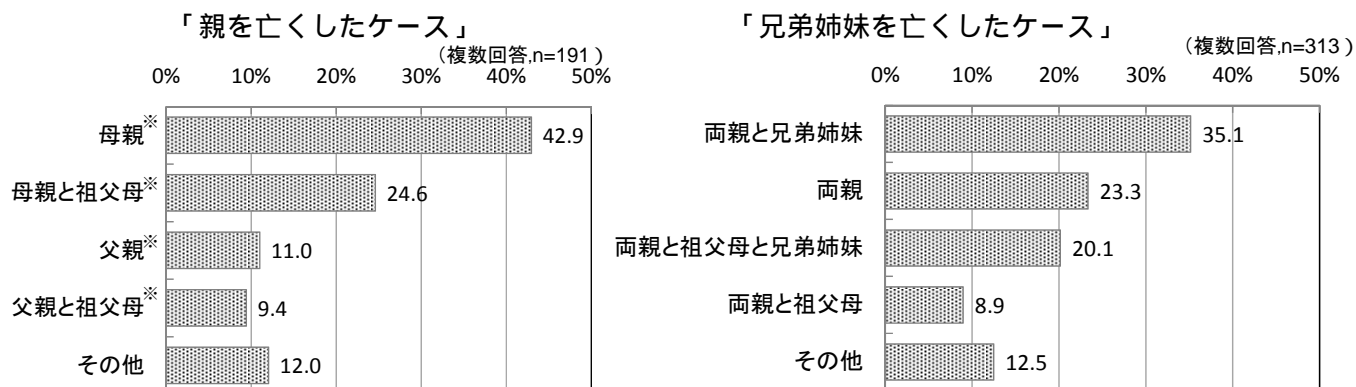
図表 6-1-7 亡くした家族別 (複数回答,n=499)



### 事故直後の家族構成 (問8)

事故後まもなくの頃の家族構成については、「親を亡くしたケース」では、「母親 (兄弟姉妹と同居を含む)」が最も多い。「兄弟姉妹を亡くしたケース」では、「両親と兄弟姉妹」が最も多い。

図表 6-1-8 事故直後の家族構成

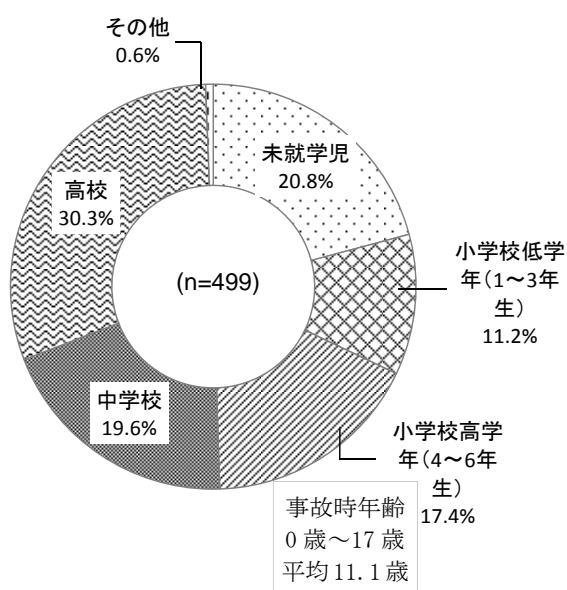


※「親を亡くしたケース」の上から4つのグループは兄弟姉妹と同居している場合を含む  
 ※祖父母同居のグループには、祖母または祖父、あるいは祖父母両方と同居のケースを含む

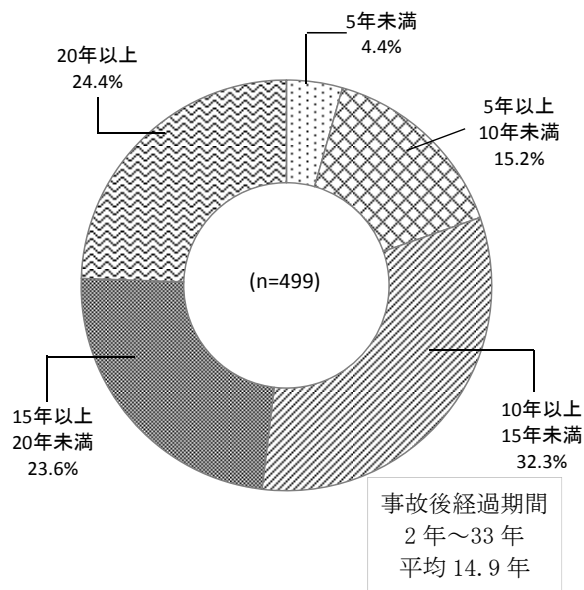
### 事故当時の就学状況及び事故からの経過期間（問4、問5）

- ・事故当時の就学状況：「高校」が30.3%と最も多く、次いで「中学校」が19.6%となっている。「小学校」は低学年が11.2%、高学年が17.4%となり、「未就学児」（幼稚園・保育園等）が20.8%となっている。なお、「事故当時の年齢」は0歳～17歳までであり、平均11.1歳であり、親を亡くしたケースは平均10.5歳、兄弟姉妹を亡くしたケースは平均11.4歳となっている。
- ・事故からの経過期間：平均で14.9年、親を亡くしたケースで15.4年、兄弟姉妹を亡くしたケースで14.6年となっている。なお、本調査対象者は、現在20歳代の回答者が中心であるため、事故後経過期間が短いほど事故時の年齢は高くなり、事故後経過期間が長いほど事故時の年齢は低いという関連性があることに留意する必要がある。事故後からの経過期間別の事故時の就学状況については、巻末の「資料」に記載している。

図表 6-1-9 事故時の就学状況



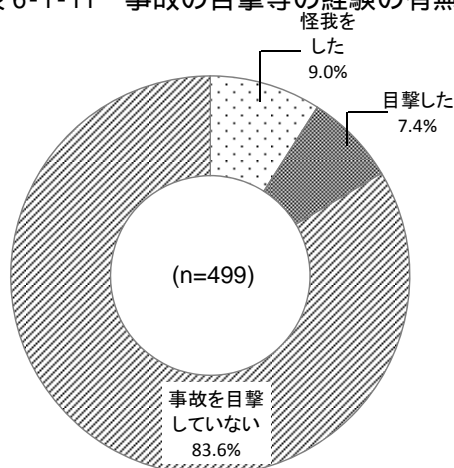
図表 6-1-10 事故からの経過期間



### 事故の目撃等の経験の有無（問7）

事故に巻き込まれたり怪我をしたり、目撃したりしたかどうかについて質問したところ、「事故を目撃していない」が83.6%となっており、ほとんどが事故を目撃していない。他方、「怪我をした」は9.0%となっており、事故に巻き込まれ、怪我をした回答者は、約1割程度であった。

図表 6-1-11 事故の目撃等の経験の有無



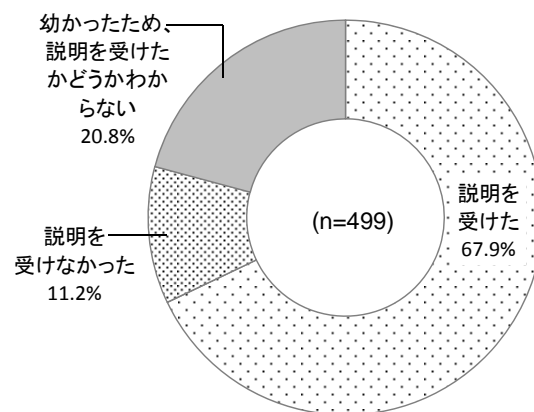
## 2. 家族が亡くなったことについて受けた説明

### (1) 家族が亡くなったことについての説明の有無

問9：ご家族の方が亡くなられてから現在まで、ご家族の方が亡くなられたことについて（事故の状況も含む）説明を受けましたか。

家族が亡くなったことについて（事故の状況も含む）の説明を受けたかどうかについては、「説明を受けた」が67.9%と最も多く、7割弱が説明を受けたと回答している。また、「説明を受けなかった」とする回答が11.2%となっており、1割強は、説明を受けていないことが示されている。また、「幼かったため、説明を受けたかどうかかわからない」が20.8%となっており、正確に説明を受けたかどうかかわからない者も2割強となっている。

図表 6-2-1 家族が亡くなったことについての説明の有無

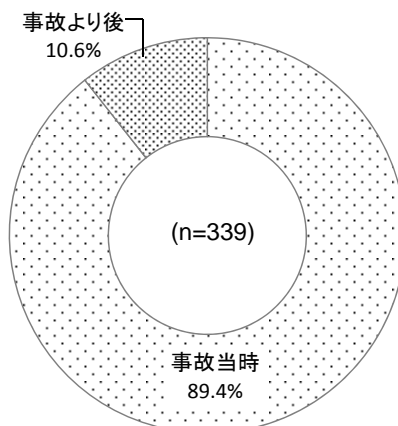


### (2) 説明を受けた時期（説明を受けた者のみの設問）

問10：ご家族の方が亡くなられたことについて、いつ頃説明を受けましたか。何度も説明を受けている場合は、最も印象に残っている説明について、ご回答ください。

「説明を受けた」と回答した者に、説明を受けた時期について質問している。「事故当時」が89.4%、「事故より後」が10.6%となっており、ほとんどが事故当時に説明を受けている。なお、「事故当時」とは事故よりおおむね1年以内を指している。

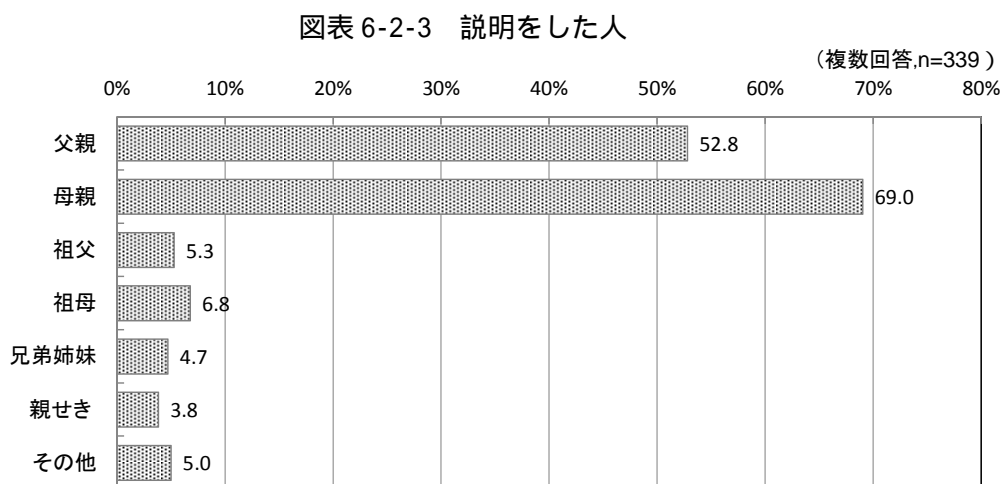
図表 6-2-2 説明を受けた時期



(3) 説明した人(説明を受けた者のみの設問)

問 11: ご家族の方が亡くなられたことについて、誰から説明を受けましたか。

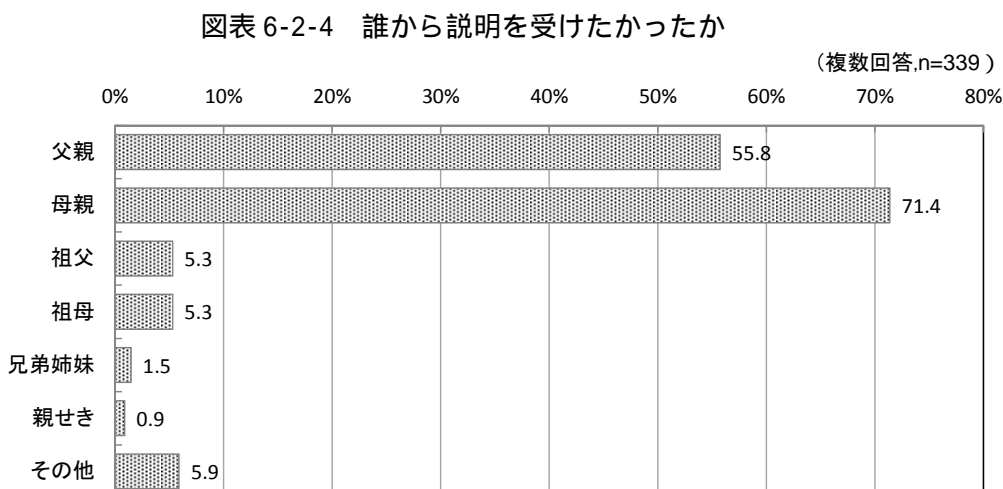
「誰から説明を受けたか」については、「母親」(69.0%)、「父親」(52.8%) となっており、説明をした人は「親」のケースがほとんどである。なお、「親せき」の内容は「おじ・おば」の回答が中心であり、「その他」の内容は「医師」や「警察」の回答が中心である。



(4) 誰から説明を受けたかったか(説明を受けた者のみの設問)

問 12: ご家族の方が亡くなられたことについて、誰から説明を受けたかったと思いますか。

「誰から説明を受けたかったか」については、「母親」(71.4%)、「父親」(55.8%) となっており、「親から受けたかった」とする回答が中心である。「その他」の内容は「警察」や「説明する者は特にこだわらない」とする回答が中心である。

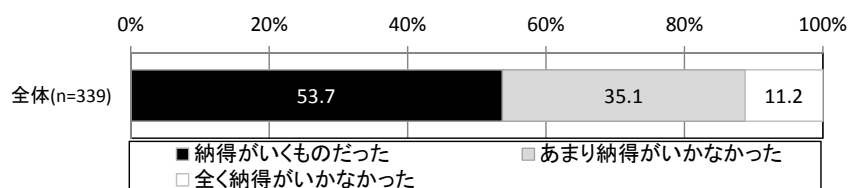


(5) 説明について納得の有無(説明を受けた者のみの設問)

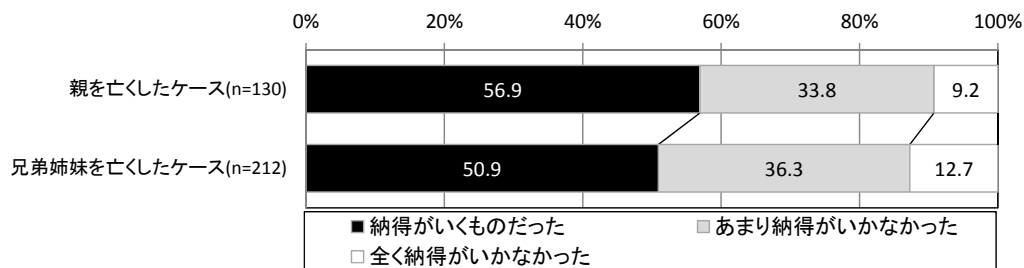
問 13: ご家族が亡くなられたことに関する説明は、納得がいくものでしたか。

家族が亡くなったことに関する説明は、53.7%が「納得がいくものだった」と回答しているが、「納得がいかなかった」とする回答(「あまり納得がいかなかった」「まったく納得がいかなかった」の合計)も46.3%となっており、納得がいかなかった者も少なくない。亡くした家族別では顕著な差異はみられていないが、親を亡くしたケースのほうが「納得がいくものだった」とする回答がやや多くなっている。

図表 6-2-5 説明についての納得の有無



図表 6-2-6 説明についての納得の有無(亡くした家族別)



※親と兄弟姉妹を同時に亡くしたケースがあることから、親を亡くしたケースの人数と兄弟姉妹を亡くしたケースの人数の合計は、全体の人数と一致しない。

(6) 納得がいくものだった・納得がいかなかった理由(説明を受けた者のみの設問)

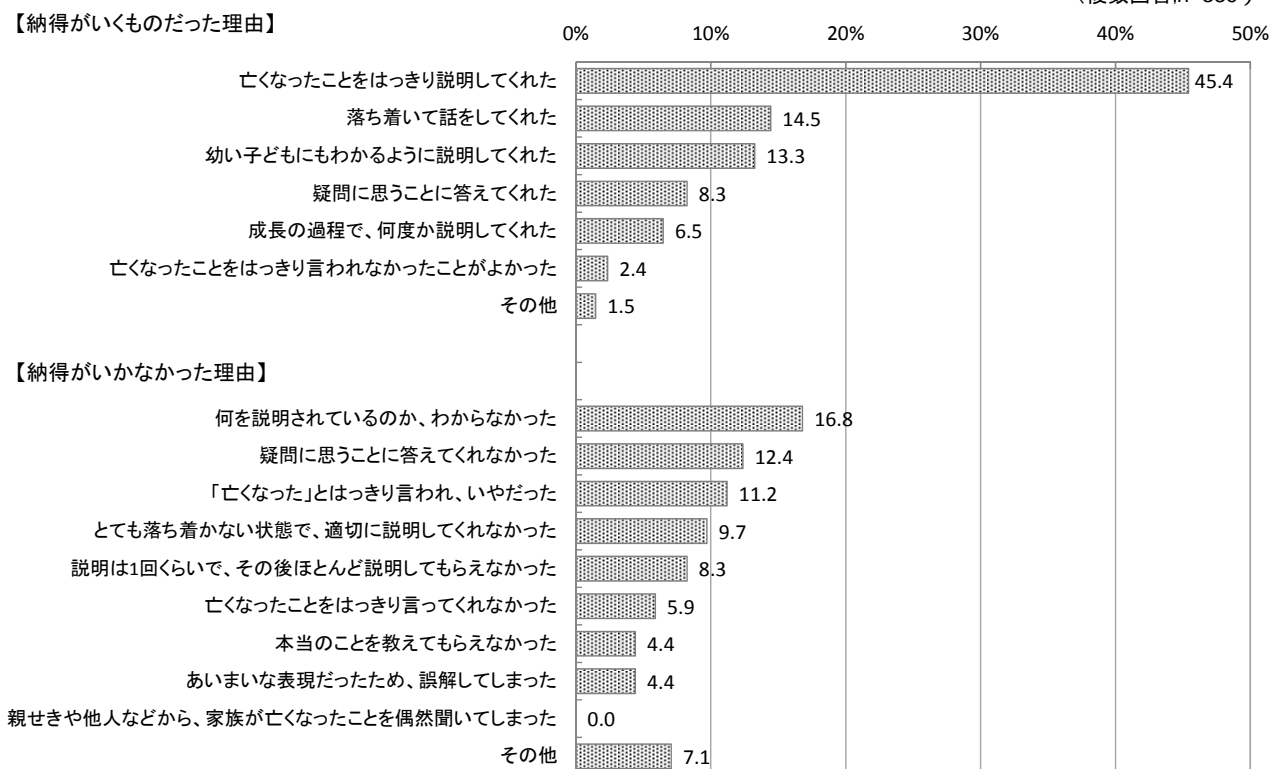
問 14~15: 納得がいくものだった・納得がいかなかった理由について、あてはまるもの全て選択してください。

説明について、前問(問 13)で「納得がいくものだった」と回答した者に対して、「納得がいくものだった理由」を質問している。その結果、「亡くなったことをはっきり説明してくれた」(45.4%)が最も多くなっており、亡くなったことをはっきり説明することが、納得できる要素として重要であることがわかる。また、「落ち着いて話をしてくれた」(14.5%)、「幼い子どもにもわかるように説明してくれた」(13.3%)、「疑問に思うことに答えてくれた」(8.3%)とする回答も多く、このような説明の方法が、子どもには納得されやすいものと考えられる。

他方、前問(問 13)で「あまり納得がいかなかった」「全く納得がいかなかった」と回答した者に対して、「納得がいかなかった理由」を質問している。その結果、「何を説明されているのか、わからなかった」(16.8%)、「疑問に思うことに答えてくれなかった」(12.4%)、「とても落ち着かない状態で、適切に説明してくれなかった」(9.7%)となっており、「納得がいくものだった理由」と対照的な回答となっている。しかし、「亡くなったとはっきり言われ、いやだった」とする回答は11.2%にのぼっており、「亡くなったことをはっきり説明すること」については、「納得できる」と「納得できない」とする両方の意見があり、状況により反応が異なる可能性が示唆される。なお、亡くした家族別の集計結果については、巻末「資料」に掲載している。

図表 6-2-7 納得がいくものだった・納得がいかなかった理由

(複数回答,n=339)



なお、家族が亡くなったことについての説明に関する自由記述からは、主に以下のような意見がある。

【説明により状況が理解でき、納得できた理由について】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・小さいころに聞いたのでよく覚えてないが、加害者はどんな人なのかと思った。事故の様子を客観的に、感情的にならず何度か話してもらえたので疑問がのこったり、加害者に対して憎しみなどの特別な感情をもたなかった(小さかったからかもしれないが)。少しずつれるが、事故の説明と一緒に、たくさんの方がお葬式に参列してくれたことや、みんなが父を大事に思ってくれていたことも話してもらえたので子ども心に父を誇らしく思えて、亡くなった後も父親がいないことに対していやな思いや不自由な思いをしたことは一度もない。	女性	30代	11	父親
・事故当時はまだ5歳でしたが何となく記憶にあった違和感がはっきりしました。思い出したくはないであろう事をちゃんと話してくれてよかったけど親はきつかっただろうと思います。	女性	20代	5	弟
・心情的に辛いし将来が不安だった。家族もどうしたらよいか分からず悲しみと不安の毎日だった。ただ年齢的にははっきりと説明して貰えたのは良かった。	男性	20代	16	父親
・父の職業が警察だったため、とても的確でわかりやすく、簡潔に話してくれたのを覚えている。わかっているのだが、信じられないという気持ちが強く、嘘であって欲しいと強く思った。	女性	20代	17	兄
・あまりにも急な事であったため、夢を見ているような感じだった。今思えば、ハッキリと事実を言ってもらって、良かったように思う。	女性	20代	14	弟
・本当のことなのか信じられなかったが、しっかりと話してくれて後々良かったと思っている。	男性	20代	17	弟
・刑事さんが私の立場に立って私の感情を一番に考えてくれて話してくれました。おかげで取り乱すこともなくそのときの状況を聞きました。疑問に思ったことは何でもゆっくりと時間をかけて教えてくれました。話し合いは3時間くらいだったのですが歩調を合わせて聞いてくれ話してくれたのが今でも私の中で救いになっています。	女性	20代	17	妹
・まだ小さかったため「亡くなる」の意味がよくわからなかったが、「もう会えない」など分かりやすいキーワードで教えてもらい、またどうして事故が起こったか、事故の様子なども写真も含めて説明してもらったので、よく分かった。	女性	20代	6	父親
・交通事故の状況を、現場も見て、車の接触後に父の車がどうなったかなど、経緯も詳しく説明してもらい、即死であったことが疑いもなく理解できたので、良かった。	女性	30代	11	父親
・今までに何回か事故内容や事故当時の状況、事故原因等の説明を受けた。事故現場にも一度、家族で行きお参りをしたことで、自身が幼かったがちゃんと理解できて納得ができたと思う。	男性	20代	3	父親
・病院で医師が大人の家族に説明しているのを横で聞いていたので、わかりやすい説明だった。子ども向けな変な説明ではなかったのがよかった。	女性	20代	9	母親
・とにかく信じがたい事実でした。両親の説明は事故当日の様子など、知っている限りの情報を私にも教えてくれたので、説明の仕方に関しては何も不満はありません。	女性	20代	12	兄
・悲しかったが、子どもだからと夢物語やはぐらかさずに現実をゆっくり分かりやすく説明してくれた。	女性	30代	10	姉
・話を聞いたとき、妹が死んだショックで気が動転してしまいました。直接的な言葉で伝えられられていたら、よりひどかったと思います。あいまいな説明をしてよかったと思います。	女性	20代	15	妹
・ショックだったし信じられなかったけれど事実を隠さず話してもらえたので、今は大丈夫です。	女性	20代	11	父親
・ショックでした。きちんと説明してもらってよかったと思っています。	女性	20代	16	父親
・しっかりと事故が起こった原因、状況を説明してくれ、誠心誠意謝罪してくれた。	男性	10代	15	父親



【状況がよく理解できず、納得できなかったことについて】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・目撃者が見つからず、両親も状況がよく分からなかったため、事故の状況説明より、状況がわからないことへのいら立ちや、警察の捜査への不満が先立っていた。また自分は幼かったため、現場検証等に立ち会えなかった。現場に直接行って話を聞きたかった。いまだに信じられないし、わからない点が多い。	女性	20代	17	姉
・「妹は事故で死んじゃったの」というわずかな説明だけで、事故当時の状況など詳細な説明はしてもらえず、なぜ死んだのかの問いにも答えてくれなかった。そのため妹の死を漠然としかイメージできず、現実味もなく、その分ショックは少なかったが、心にわかだまりが残った。ショックを受けたとしてもいいので、もっときちんとした、納得のいく説明をしてほしかったと思う。	女性	10代	6	妹
・その当時は説明を受けても自分の身に起こっている事が信じられなくて、説明自体、頭に入っていきませんでした。したがって、説明を受けたこと全部は覚えておらず、断片的な記憶があります。説明を聞いたのが警察署の取調室みたいな所だったため、怖くて嫌でした。調書をそのまま読む説明で、難しい言葉で淡々と説明していくことも、当時よくわからず嫌でした。もう少しわかりやすい言葉で説明してほしいと思います。	女性	20代	15	兄
・あまりに曖昧で、疑問に思うことばかりだった。今更、聞きたくても聞けない。当時、自分が幼かったから信じていたけど、今考えると不自然だった。	女性	10代	11	父親
・主に母から聞いたが、父がトラックに跳ねられ亡くなったと聞いても、ただある日突然、自分の日常から父がいなくなったという事しかよく分からなかった。当時の記憶は曖昧で、思い出そうとすれば断片的なシーンが思い浮かぶが(父が事故に遭った際に乗っていたバイク、家に訪ねてきた警察など)、脳と心が拒否するような感覚に襲われる。子どもながらに、その時は急になくなった父の事を話すのがタブーのような気がして、母から説明を受けた以上は聞かないようにしていた気がする。3~4年生ぐらいのときに、あらためて母から教えてもらった。	女性	30代	5	父親
・誰が悪いとか、どこに原因があるとかの追求ではなく、詳細な事実を淡々と説明してくれることを望んでいた。	男性	30代	9	兄
・交通事故だったので、病院からの説明だけではなく、警察の人も一緒に、どういう状況で事故にあったのか説明してほしいです。	女性	20代	15	兄
・どうなったのか状況も含めて説明してほしいです。曖昧な表現は後々後悔につながるから、やめてほしいと思った。	女性	20代	15	姉
・ただ今日の何時に搬送された病院で亡くなったと父から電話で聞いたので、実感がわかなかった。どう説明されても理解できたとは思えないが直接会って伝えてほしいです。	男性	20代	14	姉
・事故の原因や加害者はどうなのかという説明をしてほしいです。事故について納得いく結果というか、処分がどうなのかはつきり知りたかった。	男性	20代	15	姉
・まだ5歳だったが、手術中、オペ室前の廊下において、なんとなく状況は分かっていた。「天国へ行くんだよ」と母や親戚に言われ、父にはもう会えないんだと思った。幼かったので抽象的な説明しかできなかったんだと思う。	女性	20代	5	父親
・何となくの説明だったので、事故の客観的な解説がほしいです。	男性	20代	14	兄
・理由をしっかりと伝えてほしいです。	男性	30代	14	妹
・他殺のようなものだったのに、相手のことをちゃんと説明してくれなかったため、その部分は説明してほしいです。	男性	20代	11	弟
・小学生だったのであまり覚えてません。でも色々誤解を招くようなことを言うのは、本当にやめてほしい。	男性	20代	12	弟
・6歳児だったので気を遣った表現で話されたのが、理解できずにいらした。(「死んだの?」と尋ねて「助からなかった」と答えられたなど)	女性	20代	6	父親

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・事故の責任が亡くなった人にあったのか、相手にあったのか、自分で判断できるくらいの情報がほしかったのですが、客観的な状況説明などが教えてもらえず、残念でした。	女性	20代	15	兄
・現場を見てないのではっきりとはわからないし、まだ子どもであったので、詳しく説明がされなかった。	男性	20代	10	父親
・いきなりの説明で非常に戸惑った。本当は事故後すぐに説明をしてほしかった。感じたこととしては、何故今なのかということでした。	男性	20代	11	兄
・もっと早く知りたかった。部分的にしに説明されず、やりきれない気持ちになった。時間が経ちすぎていて、どうでもよくなってきた。	男性	20代	8	父親
・長い間あいまいで、ずっと隠されていたのがまずショックでした。	女性	20代	1	姉
・とにかくショックでたまらなかった。寝てる時にいきなり言われたので、ゆっくり起こして言ってほしかったかもしれないです。	女性	30代	17	弟

### 【その他の意見】

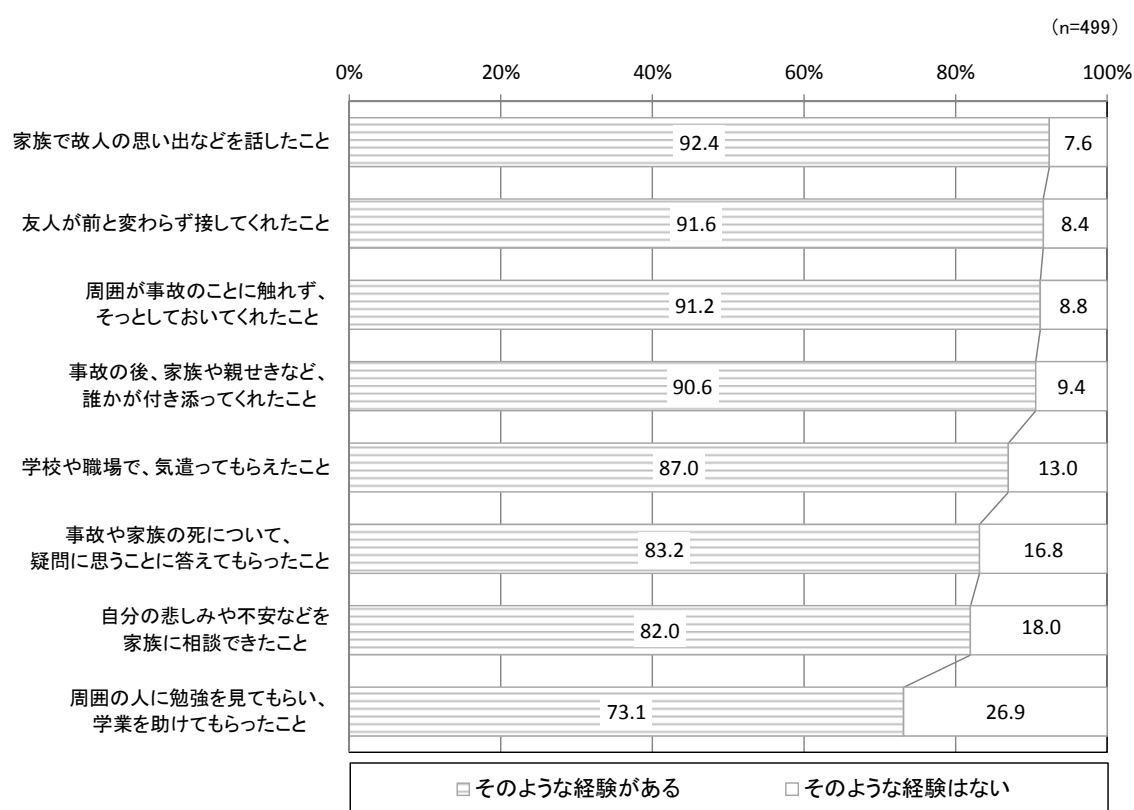
記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・私の目の前で兄が車道に飛び出し車のはねたという状況でしたが、私は車と車の運転手を深く憎んでいました。先方の男性が、事故直後兄の身を案ずるより先に罵声を浴びせてきたこと、私の両親が駆けつけた際も同様に罵声を浴びせたこと。兄が怪我を負って亡くなるまで、それを悲しむより強く憎んでいました。兄が亡くなったときに、父は悲しみにくれるより先に、感情に振り回される私を案じて、責めるべきこと許すべきこと反省するべきこと、それらを冷静に諭してくれました。	男性	30代	11	兄
・幼いながらも「死んだ」＝「もう会えない」というのは分かったが実感は全くなかった。どうしてそういう状況だったのか、どうしてその場所にいたのかなど、もっと詳しく聞きたいことが年齢を重ねるにつれ出てきたが未だに聞けずにいる。	女性	20代	5	父親
・説明中に事故を起こした相手への怒りを感じたが、感情を表してくれることで、自分の気持ちを落ち着けることができた。内容は、納得が行くものだった。もし、冷静に説明されていたほうが、私の怒りが収まらなかったと思う。	女性	20代	12	兄 姉
・相手を少しかばうような言い回しをされたことが今でも思い出すと、もやっとする。	女性	30代	16	母親
・とりあえず、他人や親戚から「かわいそうやったね」とかいう、うわべだけの心配や、同情めいた言葉はいらないです。本当に。	女性	20代	17	母親
・加害者とのやりとりも必要なのはわかるが、死を悲しむ時間が欲しかった。	女性	20代	17	母親
・理論だてて、自分が落ち着いてから話してほしかった。	女性	20代	13	母親
・こちらの心情を察して話してほしかった。	男性	20代	9	父親

### 3 . 周囲からの助けになった対応

問 17：事故から現在までの間における周囲や友人、家族の対応について、助けになったことがありますか。

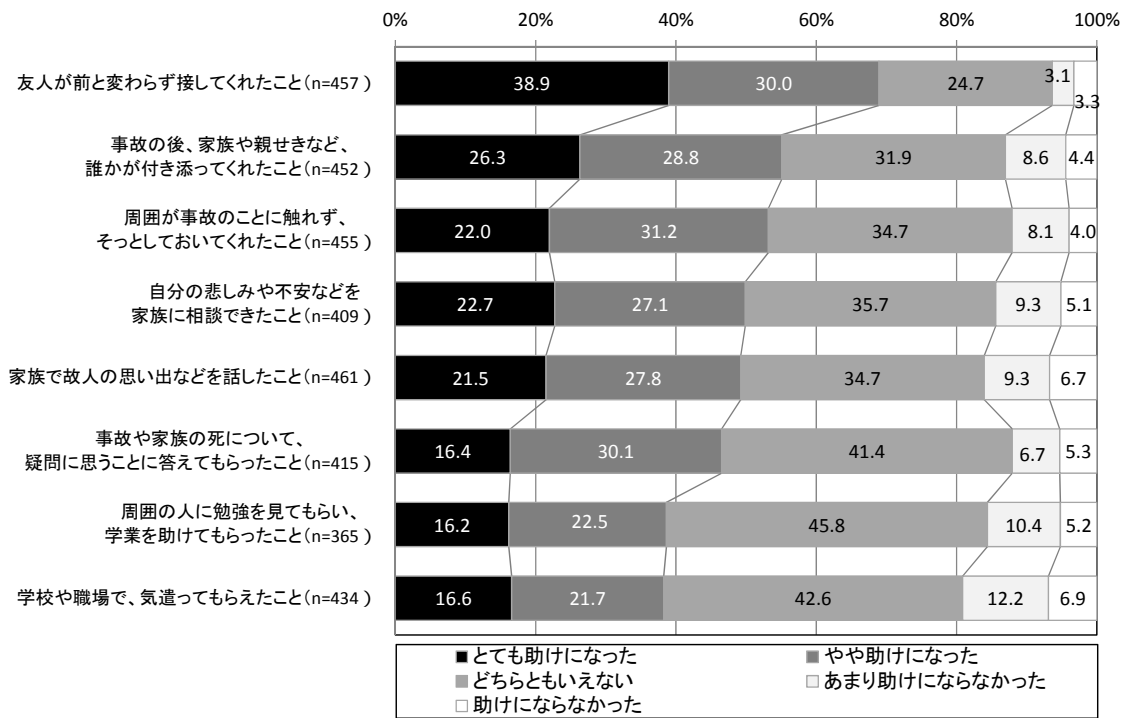
周囲や友人、家族からの助けになるような対応について、「そのような経験がある」者と「そのような経験はない」者に分けて集計している。その結果、ほとんどの項目について、「そのような経験がある」とする者が中心であり、経験の多かった対応は「家族で故人の思い出などを話したこと」「友人が前と変わらず接してくれたこと」「周囲が事故のことに触れず、そっとしておいてくれたこと」等があげられている。

図表 6-3-1 周囲や友人、家族からの助けになるような対応の経験の有無



上記の周囲や友人、家族からの助けになる対応に関する質問について、「そのような経験がある」と回答した者を対象に、そのような対応が助けになったかどうか集計している。その結果、助けになったこととして「友人が前と変わらず接してくれたこと」が最も多く、「助けになった」とする回答（「とても助けになった」「やや助けになった」の合計）が 68.9%と顕著である。次いで「事故の後、家族や親せきなど、誰かが付き添ってくれたこと」（55.1%）、「周囲が事故のことに触れず、そっとしておいてくれたこと」（53.2%）、「自分の悲しみや不安などを家族に相談できたこと」（49.8%）、「家族で故人の思い出を話したこと」（49.3%）、「事故や家族の死について、疑問に思うことに答えてもらったこと」（46.5%）となっており、そのような行為が、子弟にとって助けになる様子が示されている。なお、亡くした家族別、男女別、事故時の就学状況別の集計結果については、巻末「資料」に掲載している。

図表 6-3-2 周囲や友人、家族の対応で助けになったこと（経験のある者のみ）



また、自由記述からは、主に以下のような意見がみられている。

【友人が変わらず接してくれたことについて】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・学校の友達や近所の人が普通に接してくれたので、少しは早く普通の生活に戻れたと思う。逆に同情されて気を遣われたらかえって悲しいまま過ごしていたと思う。すごく悲しかったけど、きょうだいが多かったため、1人ではなかったのが助けになった。	女性	20代	8	父親
・私の友人がお通夜に駆けつけてくれたこと。数週間ぶりに学校に行っても周りの皆が変わらず接してくれたこと。友人が手紙をくれたこと。お通夜の時、父の友人夫婦が夜遅くまでずっと側にいて話をしてくれたこと。	女性	30代	17	姉
・友人はいつも通りに接してくれたことが一番よかった。家族は鬱になったりで全然助けにならなかった。周りが普通にしてくれることが一番ベストな助けだと思います。	女性	20代	17	母親
・家族が混乱し頼りきれないままだったので、友人が変わりなく接してくれた事で気持ちを持ち直せた。	女性	30代	17	兄
・友人が、いつもと変わらない日常を提供してくれ、叔父がそっと支えてくれた。	男性	20代	13	父親
・友達が普通に接してくれた。いつも通りが一番いいです。	女性	30代	10	父親
・特別扱いをされなかったことが、かえって支えになった。	女性	20代	10	父親
・友人との楽しい会話が唯一現実逃避できた。	男性	20代	12	妹
・周りが変わらないことが一番の思いやり。	女性	20代	14	兄

【周囲がさりげなく支えてくれたことについて】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・母が亡くなった時、私たちきょうだいはまだ幼かったので、毎週叔母がご飯を作りに来てくれたり、家族がみんな母の分まで愛情を込めて育ててくれた。母親がいないからと言って、特に不自由したことはないし、友達もみんな優しく、みんなに支えられてると感じた。特に、父は大変だったと思うが、それを感じさせないくらい、いつも明るく接してくれて、大学まで行かせてくれて誇りに思っています。	女性	20代	4	母親
・工作中的事故だったが、職場の方の対応にとっても感謝している。亡くなってから10年近く、毎年私たちきょうだいにクリスマスにはケーキを持ってきてくれ、墓参りをしてくれていた。労災認定のためにいろいろと尽力もしてくれて、労災が認められ、母もだいぶ助かったと思う。周りの人のおかげで母が助けられていたからこそ、私たちきょうだいも助かったと思う。誰かはわからないが、いまだに毎年お盆にお供えがある。父を忘れないでいてくれる人がいることも助けになっていると思う。	女性	30代	11	父親
・友人が姉の思い出話を聞いてくれた。大人たちは、「お気の毒」の一言で片づけ、故人の話はあからさまに避けるが、私としては姉のいた歴史が消えてしまうようで悲しかった。でも友人たちだけは姉の思い出話に付き合ってくれた。	女性	20代	17	姉
・父親参観などで父親がいないと寂しい思いをしていたが、同級生のお父さんや母の知り合いが父親代わりに参加してくれたのが凄くうれしかった。	男性	20代	0	父親
・たくさんたくさん泣いていた私を両親が受け止めてくれた。何気ないときに泣き出してしまう時も、ずっと抱きしめてくれたこと。とっても救われたと思う。友達も何度も一緒に泣いてくれた。	女性	30代	12	妹
・食事をはこんでくれたり、受験生だったのでお守りもつくってくれたり、高校の説明会につきそってくれたりした(父は仕事でこられなかったので叔母が身の回りの世話をしてくれた)。	女性	30代	15	母親
・母が、私たち子どもを養うために就職し、家計を支えてくれたこと。また、事故後しばらく母方の祖母と母の姉が、私達の世話を田舎から出てきてしてくれたことが助けになったと思う。	男性	20代	8	父親
・母子家庭になったので、親戚や親の同僚の方々本当に助けてもらった。仕事の都合で家に母がいない時は、家によく泊めて頂いた。	男性	30代	2	父親
・母子家庭になり生活が苦しくなって、家族で旅行やレジャーに行くことがなくなってしまったが、親戚のおばさんおじさんや祖父母が誕生日やクリスマスにどこかへ連れて行ってくれたり、プレゼントをくれたりして、とてもうれしかった。	女性	20代	8	父親
・みんな再登校が始まったとき温かく受け入れてくれたこと。	女性	20代	7	兄
・祖母が母親の代わりのような存在でいてくれたこと。	女性	20代	3	母親
・親戚が外に連れ出してくれたり、常に一緒にいてくれたりした。	女性	20代	15	父親
・友人が何も言わず一緒にいてくれたことが、ぽっかり空いた私に安心感をくれました。	女性	20代	17	妹
・友人も一緒に泣いてくれたこと。	女性	20代	10	母親

【故人の思い出話を聞かせてくれたことについて】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・パパっ子だったにもかかわらず、父との思い出が数えるほどしかないため、家族や親せき、知人からの父の話や話を聞くと複雑な気持ちである。ただ、みんな口をそろえて「誰からも信頼の厚い優しい人だった」と言ってくれるので、誇りに思える。	女性	20代	5	父親
・自分の父親がどういう人だったかなど、親戚の人が話してくれたこと。	女性	20代	12	父親
・家族のみんなで助け合いました。話し合ったり、思い出話をしたり。	女性	20代	13	父親

【そっとしておいてくれたことについて】

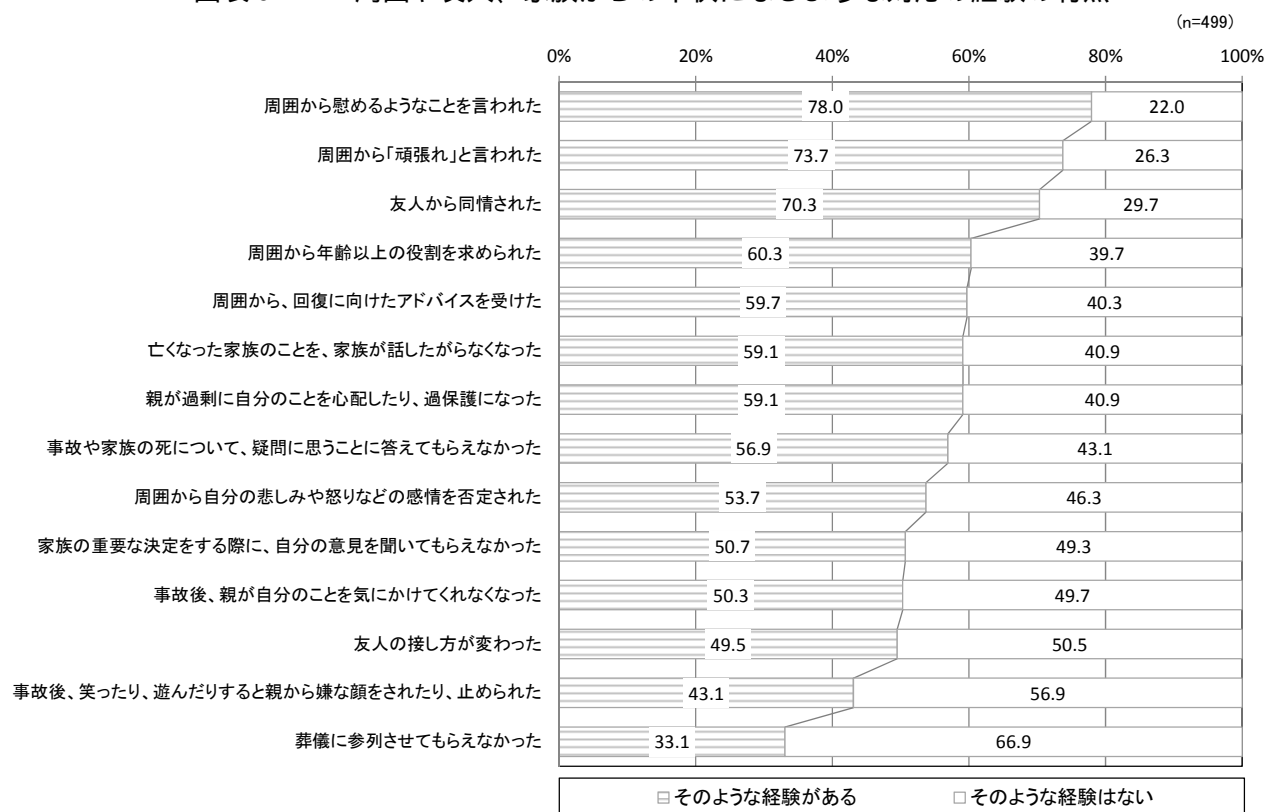
記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・友達からは事故のことに対しては、深く聞かれることなく、ただ一緒にいてくれたことが大変支えになった。	女性	20代	16	妹
・極力その話題に触れてくれなかったことが救いだった気がする。	男性	20代	16	弟
・なにも聞かず、違う話をしてくれたこと。	男性	10代	15	父親
・いつも通りの生活をさせてもらった。	女性	20代	5	父親

## 4 . 周囲や友人、家族からの不快な対応

問 19：事故から現在までの間における周囲や友人、家族の対応について、不快に感じたことがありますか。

周囲や友人、家族の対応の中で不快になるような対応について、「そのような経験がある」と「そのような経験はない」者に分けて集計している。その結果、「周囲から慰めるようなことを言われた」「周囲から頑張れと言われた」「友人から同情された」といった項目には「そのような経験がある」とする回答率が多く、7割超の回答者は、そのような経験を有している。他方、「葬儀に参列させてもらえなかった」「事故後、笑ったり、遊んだりすると親から嫌な顔をされたり、止められた」「友人の接し方が変わった」については、「そのような経験はない」とする回答が過半数となっており、そのような経験は少ない様子が示されている。

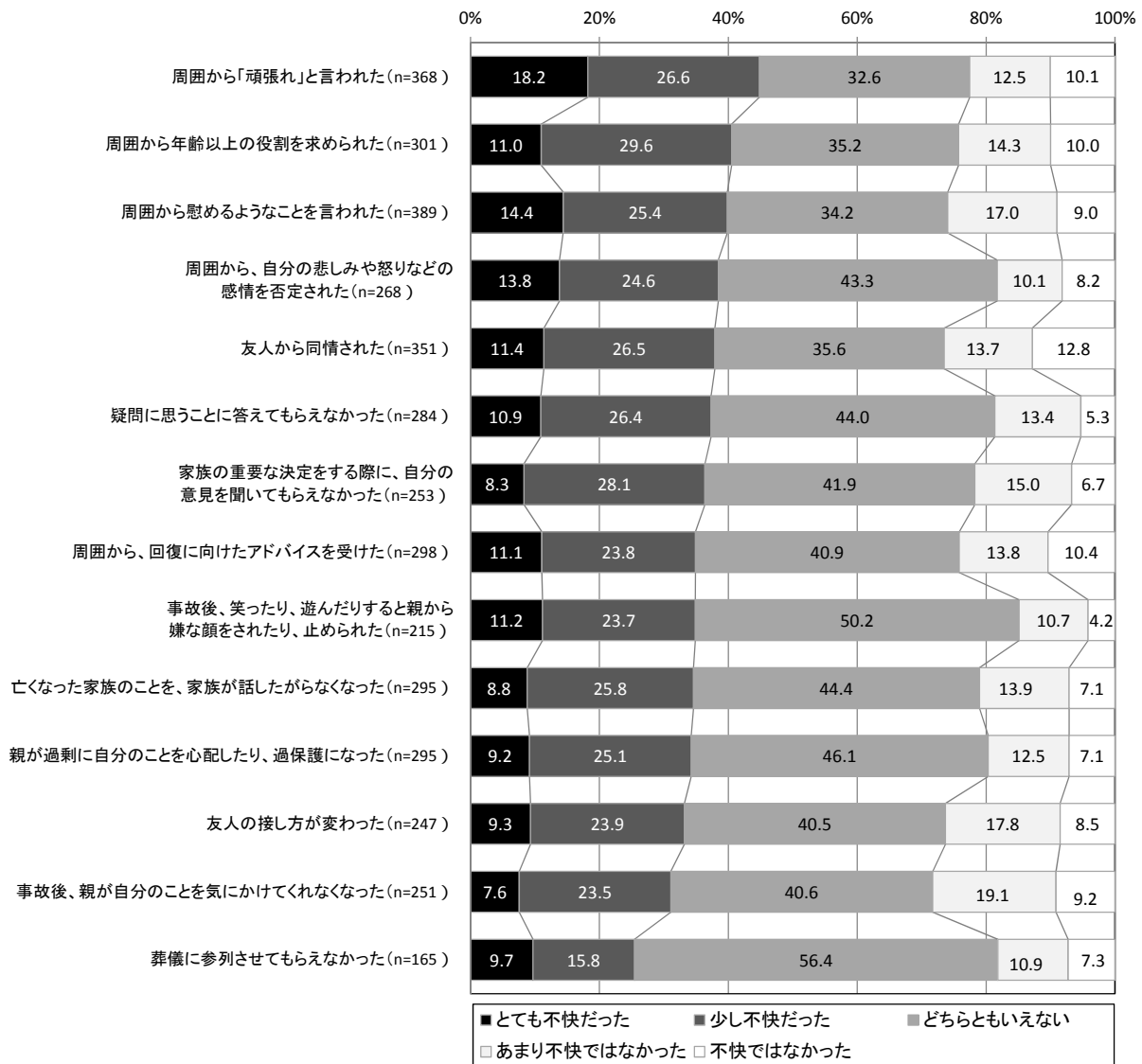
図表 6-4-1 周囲や友人、家族からの不快になるような対応の経験の有無



周囲や友人、家族の対応で不快に感じたことについて、「そのような経験がなかった」と回答した者を除いて集計している。その結果、不快に感じたこととして「周囲から頑張れと言われた」が最も多く、「不快だった」とする回答（「とても不快だった」「少し不快だった」の合計）が44.8%となっている。次いで、「周囲から年齢以上の役割を求められた」（40.6%）、「周囲から慰めるようなことを言われた」（39.8%）の順となっている。なお、選択肢のほとんどの項目について、3割～4割強の回答者が「不快だった」と回答しており、これらの態度は、一部の子弟には「不快」と感じられていることがわかる。

また、「不快ではなかった」とする回答（「あまり不快ではなかった」「不快ではなかった」の合計）が多い項目は、「事故後、親が自分のことを気にかけてくれなくなった」（28.3%）、「友人から同情された」（26.5%）、「友人の接し方が変わった」（26.3%）とする回答に多く、そのような対応については、「不快ではない」とする回答者も少なくない。なお、亡くした家族別、男女別、事故時の就学状況別の集計結果については、巻末「資料」に掲載している。

図表 6-4-2 周囲や友人、家族からの対応で不快になったこと（経験のある者のみ）



また、自由記述からは、主に以下のような意見がみられている。

【周囲から「頑張れ」などと言われたことについて】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・周囲の大人たちから「今度はあなたが両親を助ける番」「がんばれ」と言われた。私のつらい気持ちは聞いてもらえなかった。信じられないが、「保険金が入ってうらやましい」と10年経った今でもいわれる。そのため母は隠れるように暮らしている。私は姉の話をしたいの、周囲は故人の話だからと気を遣って避ける。私はむしろ聞いてほしかった。両親、特に母が私の身を過剰に心配する。「お姉さんは生まれ変わって、来世はあなたの子どもになって逢えるから、悲しんではいけない」というようなことを言われたが、私は現世でもっと一緒にいたかったのにと悲しくなった。	女性	20代	17	姉
・親の死を体験したことが無い人からの「頑張って」とか、「あなたの気持ちは良くわかるよ」って言葉を使う人の近くに行きたくない。慰めのつもりなんだろうけど、何もわかってない人たちから言われたくない。そういう人たちに限って、影でいろいろ悪口を言われたから。	女性	20代	14	父親
・事故後は加害者から謝罪がなく、「お金がないです」と言われ、全然知らない大人から毎日「かわいそう」とか、「しっかりしなさい」と言われ、苦痛で仕方なかった。人の言葉の励ましの言葉がこんなにもうざったくて、苦しめられるとは思わなかった。	女性	20代	17	母親
・周囲から「頑張って」と言われたことが負担だった。家族を亡くした悲しみもわからなくせに、なぜ励ますことが出来るのか、無責任な発言に怒りを感じた。	女性	20代	16	妹
・お決まり文句の「がんばれ」、「よくわかる」は、やめるべき。東日本大震災を考えてみても理解できると思うが、経験者にしか分からないことがある。	男性	30代	9	兄
・「前向きに」とか、「亡くなったお父さんの分まで」とか、そういうことを言われるのは不快だった。	女性	20代	10	父親
・長女なので、しっかりねと言われたことがプレッシャーだった。	女性	20代	15	父親

【周囲からうわさ話や詮索をされたことについて】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・兄はスポーツで注目を集めていた人だったので、試合に行くたびに他のチームの親が「あの人の妹・・」という目で見てるのがつらかった。母に「それでも試合を見に来る父親の気持ちを考えて」と言われ、兄と同じスポーツをしていたが、いやになった。兄の分まで強くなりたいたい気持ちと、私を見てほしい気持ちで苦しみました。	女性	30代	7	兄
・視力に問題のある同級生がいて、母親がしょっちゅう学校に来ていてうわさ好きな人だったようだが、他の子の親に会うと横目でこっそりこちらを見ながら口元を隠して噂話をしていたのが嫌だった。しばらくの間、その人の噂話のターゲットにされた。	女性	20代	9	母親
・喪が明けたあと同い年の近所の女の子から「悲しかった？ねえ悲しかった？」などと言われ、数週間後に同じ子から「なんで泣いてないの？悲しくないの？」と言われたこと。	女性	20代	6	父親
・事故当初の段階で、過剰な気遣いや事故についてやたらと深く説明を受けたがる教師や親せきに不快感を持ちました。その頃は気持ちに余裕が持てるわけもなく、表面上の説明しかあえてしませんでした。	男性	20代	17	弟
・事故翌日の登校時、事故現場付近に献花に行く際、登校中の同じ学校の生徒が弟の事故について友人とふざけながら「自殺らしいよ～」と笑いながら話していたこと。	女性	20代	12	弟
・クラスメイトにだいたい経って落ち着いた頃に「さみしくないの？」って聞かれて、とても不愉快だった。「さみしくないわけないけど、大丈夫だよ」と答えた覚えがあります。	女性	20代	5	父親
・事故直後は不快なことはなかったが進学、就職の面接で父がいない事の説明を求められるのは嫌だった。	男性	20代	16	父親
・事故の話になった時に、ひそひそいわれたこと。	男性	10代	15	父親



【周囲から同情されたこと】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・「辛いことを思い出させてごめんなさいね。」と言われること。両親がいることが当たり前のように話をされること。	女性	20代	0	父親
・役所に死亡届を出しに行ったら、受付のおばさんに、業務的なこと以外に、同情されるようなことを言われた。	女性	20代	17	兄
・不快というわけではないが、「大変ね。」と言われた時に、大変と感じたことがないので、反応に困ってしまう。	女性	20代	4	母親
・「かわいそうに…」と言われること。何がかわいそうなのか、わからない。	男性	20代	0	父親 母親
・近所の人たちから、可哀想な子と言われ続けた。	男性	20代	0	父親
・「可哀想に」と言われることがとても嫌だった。自分は、可哀想じゃないと思った。	女性	30代	10	父親
・やけに周囲から悲しい目で見られた。	男性	20代	16	妹
・人によっては「いい兄だったのに…」みたいな事を言われてしまって、とても不快に感じた。	男性	20代	17	兄

【周囲から金銭面の話題が出たり、金銭問題が起きたりしたこと】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・多額の保険金のおかげで、父方と母方の親戚が大衝突し(私や姉はまだ未成年だし、母も昔交通事故に遭っていて身体が弱っており、重大な判断も出来ず、いつも親戚に従っていて、私たちの意見は無視)、結局大ゲンカになって、最後は母方の親戚が全ての管理をすることになり、父方の親戚と縁が切れてしまった。	女性	30代	15	父親
・うちは事故前に離婚していました。父は離婚したあとも、保険金の受取りを、私達にしてくれていました。その保険金が原因で、父の親と揉めて、不快でした。包丁を持ってうちに押し掛けてきて、母を脅したり、とても怖い思いをしました。	女性	20代	16	父親
・父親の前の職場から因縁をつけられて、慰謝料の半分ほどをもっていかれたことが、今でも不満です。当時は法律のことが全くわからなかったので、今でも思い出すとやるせない。そして人の不幸につけこみ、金銭をどうしようという根性が許せない。	男性	20代	16	父親
・親族での金銭トラブルが発生した。	女性	20代	10	父親
・金銭問題に関する話し合いのほうが、真剣だったこと。	男性	20代	6	母親
・クラスメイトに「お金が無いの？」と言われた。	女性	20代	14	父親

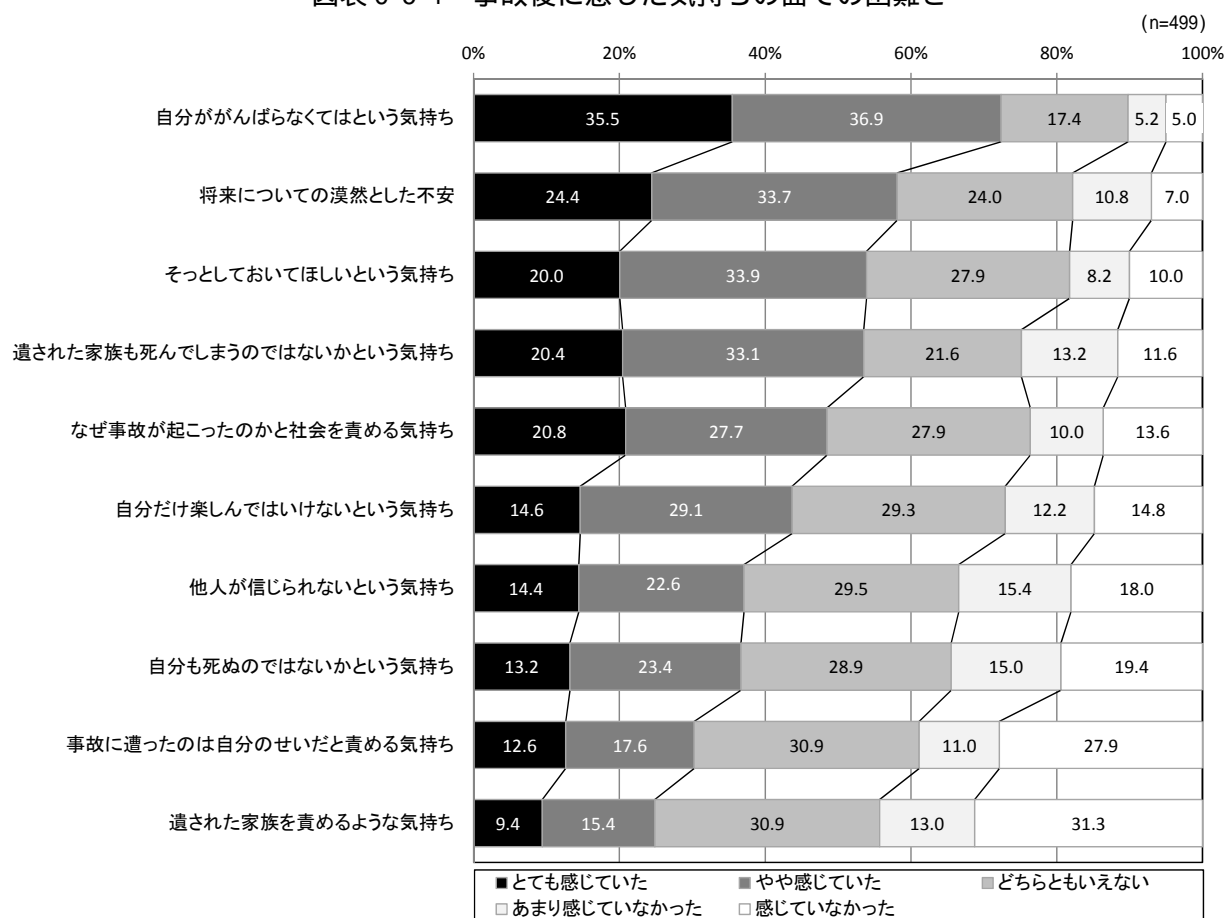
## 5 . 気持ちの面での困難さ

### ( 1 ) 気持ちの面での困難さ ( 全体 )

問 33 : ご家族を事故で亡くされたことに対する次のような感情について、事故から現在までの間に、あなたはどの程度お感じになったことがありますか。

事故から現在までに感じた気持ちの面での困難さについて、「感じていた」とする回答（「とても感じていた」「やや感じていた」の合計）が多いものは、「自分がかんばらなくてはという気持ち」（72.4%）、「将来についての漠然とした不安」（58.1%）、「そっとしておいてほしいという気持ち」（53.9%）、「遺された家族も死んでしまうのではないかとという気持ち」（53.5%）、「なぜ事故が起こったのかと社会を責める気持ち」（48.5%）、「自分だけ楽しんではいけないという気持ち」（43.7%）といった項目であった。自分がかんばらなくてはいけないという気持ちを持ちやすいことや、将来についての漠然とした不安があることについては、平成 22 年度調査においても上位の 2 項目であり、不安を抱えながらも、かんばらなくてはいけないと張りつめた気持ちを抱えやすいことは、交通事故で家族を亡くした子どもに特徴的な感情と考えられる。

図表 6-5-1 事故後に感じた気持ちの面での困難さ



また、自由記述からは、主に以下のような意見がみられている。

【自分が頑張らなくてはこの気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・周囲の大人は「辛いね、頑張るんだよ」と言ってきたが、何を頑張ればいいのかわからなかった。父親が居なくても生きていくしかないで、母親が仕事ばかりになっても我慢するしかないと自分に言い聞かせていたが、これが「頑張る」なのか悩んだりしていた。	女性	20代	8	父親
・知らず知らずのうちに「残された自分が頑張らなくて」とプレッシャーをかけていて、無理をしていたと思う。事故後、数年間は何かあっても何をみても涙が流れなかった。	女性	30代	17	姉
・私が母親を支えないといけないという気持ちが強かった。	女性	10代	5	父親
・「悲しくても泣いてはいけない」という気持ちと同時に「自分が周りを明るくせねば」という気持ち。	女性	30代	5	父親
・残された家族をこれ以上悲しませたくないという気持ち。	女性	20代	17	妹
・まずは自分がしっかりすれば家族みんなも元気になると思っていた。	女性	30代	2	姉

【将来についての漠然とした不安】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・親や親族の高齢化で家族や一族の協力関係が将来も続くのか不安がある。今度は自分が親や親族を支えなくてはならないと思うこと。それと、私が幼かった時に父親を失ったことで、父親世代の方とどう接していけばよいか分からない時があり不安を覚えるときがある(母親や祖母など女性に育ててもらった影響があるのかも)。	男性	20代	3	父親
・どうやって悲しみを乗り越えればいいのか、また、この悲しみはいつまで続くのか、漠然とした不安はずっと消えなかった。	女性	20代	16	妹
・母親だけで将来大丈夫なのか、という不安。お金に関する心配が一番不安だった。	女性	20代	17	父親
・突然の悲しみをもう二度と感じたくはないと思いながら、常に不安な状態にいること。安心してもっと気楽に暮らしたい。	女性	30代	14	父親

【そっとしておいてほしいという気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・経験したことの無い人間が、経験者にモノを語る、これほど滑稽で失礼なことは無いと感じた。「分かった口を聞くな！」と言いたい。	男性	30代	9	兄
・あまり悲しみを外に出さないようにしていて、感情が表現しにくくなっていた(一時)。	男性	20代	17	兄

【遺された家族も死んでしまうのではないかという気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・母親が自殺してしまわないか心配でした。	女性	20代	15	兄
・自分が残される恐怖。	女性	20代	5	兄

【なぜ事故が起こったのかと社会を責める気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・何をしても、「何かが欠けている」「ひとりたりない」という感覚がつきまとう。無理な横断をしている人を見ると、「なんでマナーを守っていた姉が(相手の車のせいで)なくなって、ああいう危ない人はなんともないんだろう」と怒りがわいてくる。進学を機に上京したが、傷の癒えない両親を残して出ていくことに罪悪感があった。	女性	20代	17	姉
・お母さんを責めることはなかったが、周囲の人が、お母さんを責めるようなことを言っていたと後から聞き、その人に怒鳴り込んだことがある。姉と一緒に。人の家のことがいろいろ気になる人も多いが、それを当事者に聞かせないなどのモラルはないのかと思って、社会・世間に対して怒りがあった。	女性	30代	12	妹
・なんで私の弟なのだろうと、弟と同世代の子どもたちを見かける度に感じてしまうのが正直辛かったです。ただ、家族で衝突しあうことも良くないと感じていたので、どうしたら雰囲気が変わるのかということを考えられるまでは困難な場面が多々ありました。	男性	20代	17	弟
・加害者は未成年だったので、怒りをどこにぶつけていいか分からない。兄が亡くなっていなければ、今より幸せな生活をしているのではないかと、答えのないことを考えてしまう。	女性	30代	7	兄
・自分の将来は暗い、加害者が憎い、死にたい。	女性	20代	17	母親

【自分だけ楽しんではいけないという気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・笑ってはいけない、楽しんではいけないのは、いつまでなのか。	女性	20代	13	母親

【他人が信じられないという気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・どうせ誰かが死ぬのなら、代わりに自分が死ぬべ良かったのにと思った事は何度もあります。その方が、みんな幸せだったんじゃないかなと。それと、やっぱり、「なんでお父さんだったのか？」という気持ちは物心ついた時からずっと心に抱えていました。さらに、そんな小さな子供がいながら、どうして死ねたのか。なくなった本人を責める気持ちもずっとあり、男性は嘘つきだ、守ると言っても勝手に死ねんだ。と男性の言葉を信じられなくなりました。先の事を約束しても、いつ不測の事態が起こるかはわからない、期待するだけ悲しみが大きくなるので先の約束はしないようにしています。素直じゃない自分がすごく辛いです。	女性	20代	1	父親
・人を信じない性格になりました。	男性	20代	9	父親

【自分も死ぬのではないかという気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・自分もおなじ年齢で死ぬのかと思う気持ち。	女性	30代	17	父親

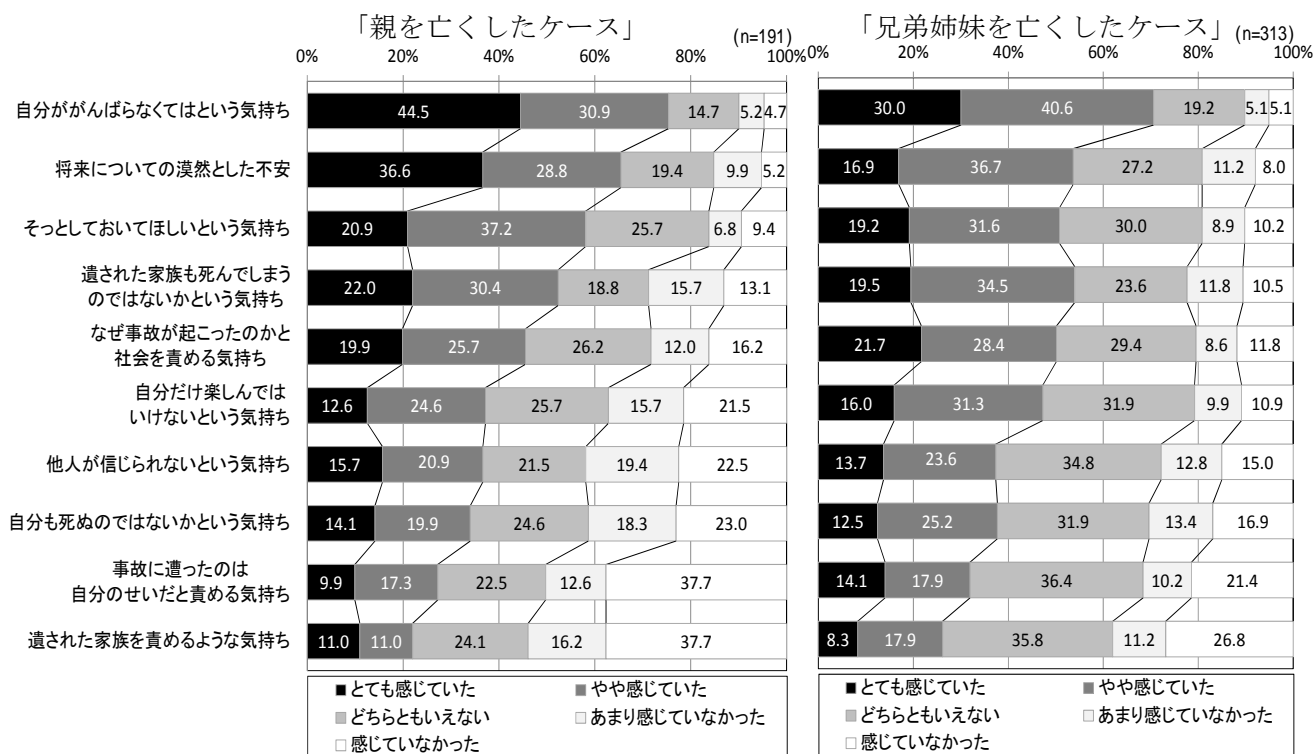
【事故に遭ったのは自分のせいだと責める気持ち】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・突然事故で父が亡くなったのでまず戸惑った。事故に遭う2日ほど前に喧嘩して、仲直りをする前に亡くなられてしまったので、「もしかしら父は悩んで自殺したのではないか」「私が父を殺したのではないか」と思った。その疑問は今でも消えていない。また、事故はいつ誰が起こすか分からないと思うようになって、「今元気で暮らしていても明日がどうかなんて誰もわからない」という考えで今も生きている。	女性	20代	14	父親
・自分がいなければ、兄が事故に遭うこともなかったのかな？と思う気持ちが今でも完全に払拭できたわけではないので、やはりその点に関してはすごく辛いです。	男性	20代	3	兄
・自分が一日でも先に死んでいたら、兄は事故に遭わずに済んだかもと考えた。	女性	20代	17	兄
・出かけるのを引き止めていればと何度も考えて泣いていた。	女性	20代	10	母親

## (2) 気持ちの面での困難さ(亡くした家族別)

亡くした家族別では、「自分ががんばらなければという気持ち」「将来についての漠然とした不安」は、親を亡くしたケースのほうが、兄弟姉妹を亡くしたケースよりも多い傾向がみられている。特に「とても感じていた」とする回答率が高い傾向にある。

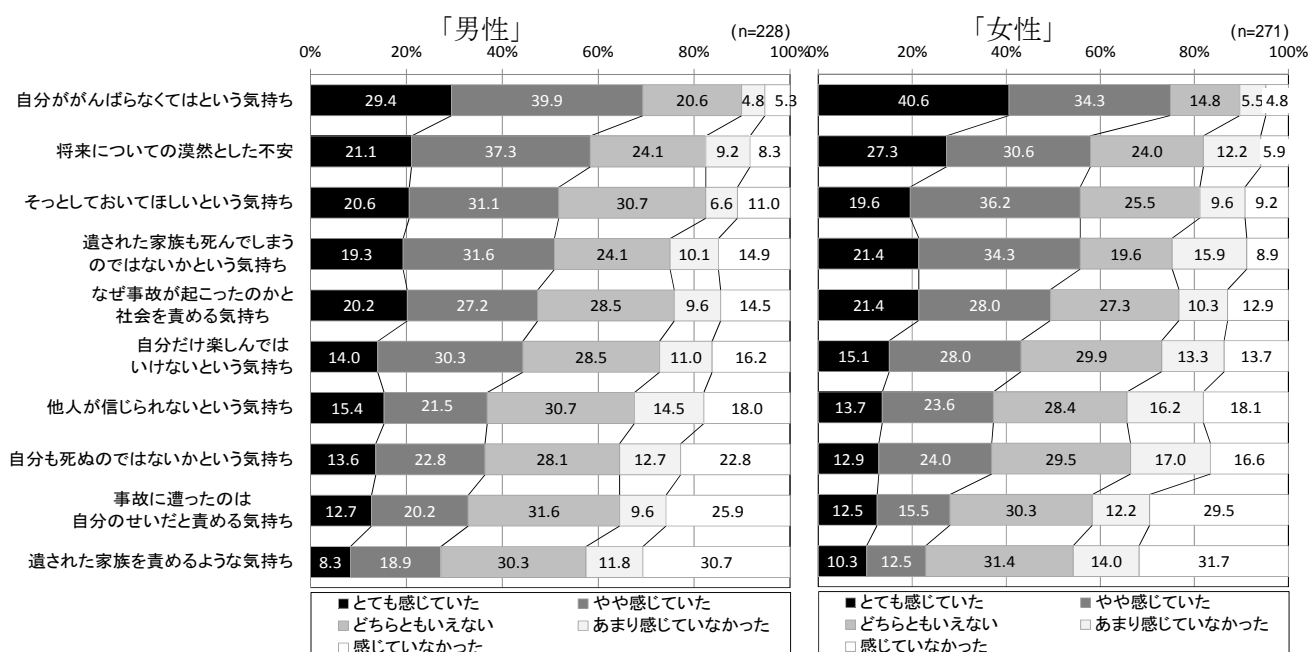
図表 6-5-2 事故後に感じた気持ちの面での困難さ(亡くした家族別)



## (3) 気持ちの面での困難さ(男女別)

男女別では顕著な差異はみられていないが、特に「自分ががんばらなくてはという気持ち」は、やや女性に多い傾向にある。

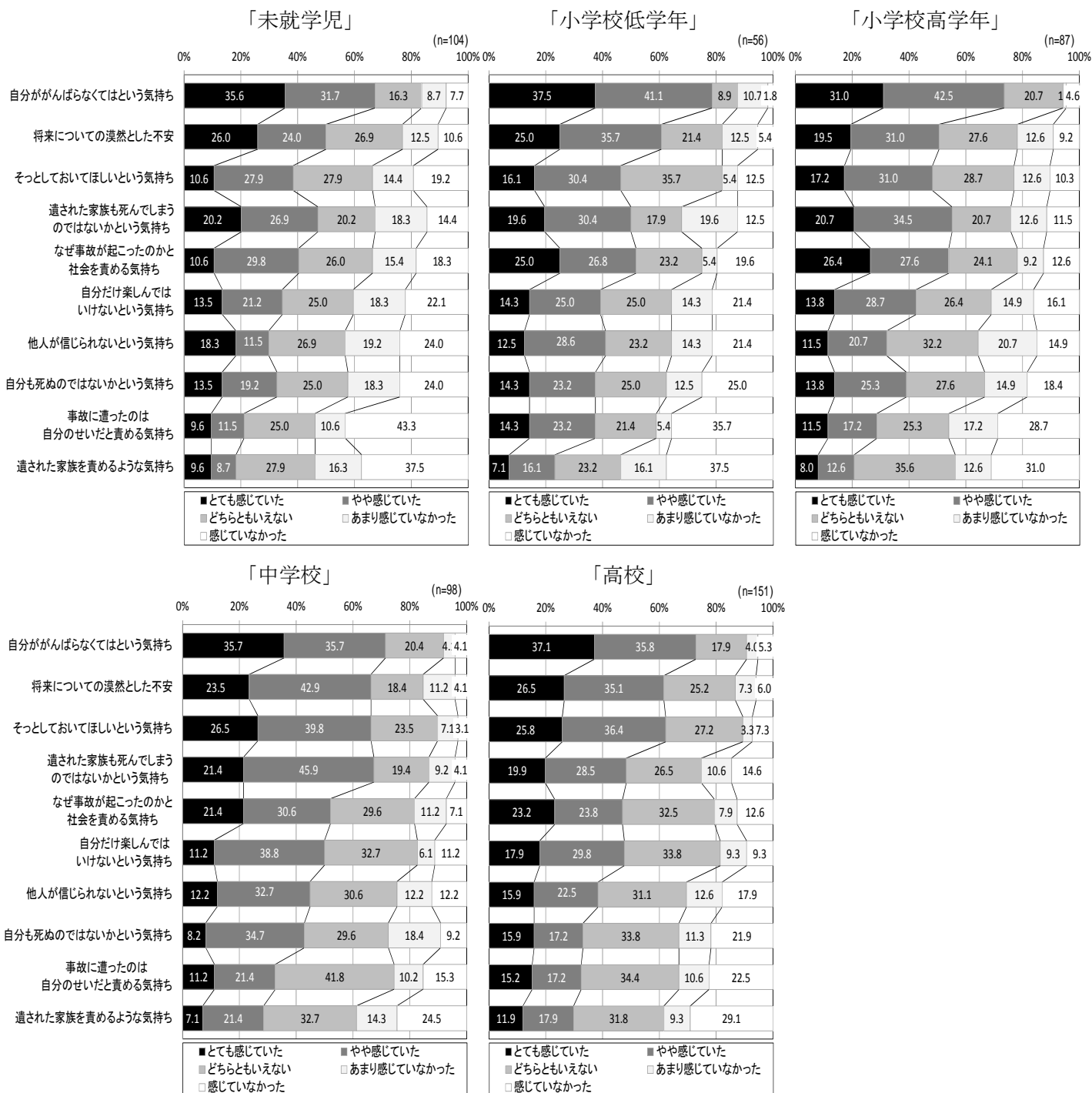
図表 6-5-3 事故後に感じた気持ちの面での困難さ(男女別)



#### (4) 気持ちの面での困難さ(事故時の就学状況別)

事故時の就学状況別では顕著な差異はなく、就学状況にかかわらず、気持ちの面での困難さは同じ傾向にあることがうかがえる。ただし、「中学校」「高校」のときの事故においては「そっとしておいてほしい」と感じている比率が高くなる傾向にあり、この頃は、特にそのように感じやすい時期である可能性がある。また、就学状況にかかわらず「自分がかんばらなくてはという気持ち」の回答率が高くなっており、比較的若い頃の事故であっても、意識されていることがうかがえる。なお、本調査は回答者の事故時の学齢が高くなるほど、事故からの経過期間が短くなる傾向にあるため解釈には注意が必要である(資料1. 属性と事故時年齢等の平均値参照)。

図表 6-5-4 事故後に感じた気持ちの面での困難さ(事故時の就学状況別)



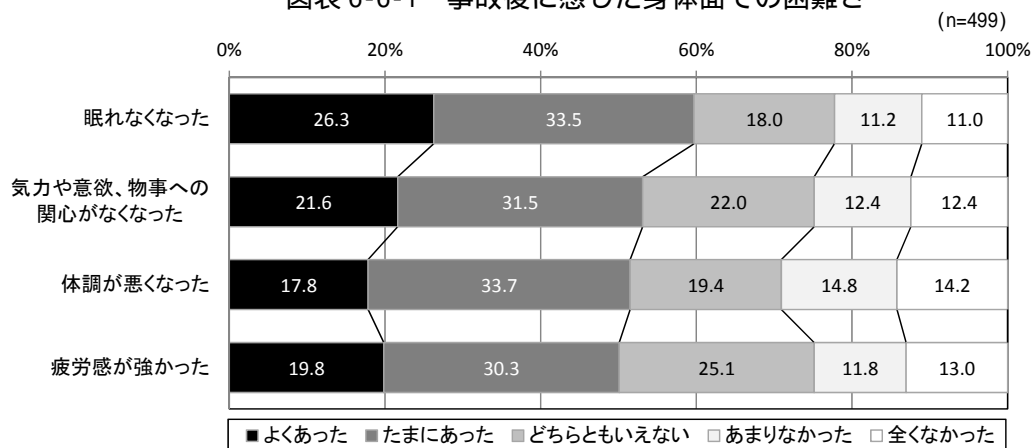
## 6 . 身体での困難さ

### (1) 身体での困難さ (全体)

問 37: ご家族を事故で亡くされたことに対する次のようなことについて、事故から現在までの間に、あなたはどの程度お感じになったことがありますか。

事故から現在までに感じた身体面での困難さについて、「あった」とする回答（「よくあった」「たまにあった」の合計）が多いものは、「眠れなくなった」(59.8%)、「気力や意欲、物事への関心がなくなった」(53.1%)、「体調が悪くなった」(51.5%)、「疲労感が強かった」(50.1%)といった項目であった。全ての項目について過半数となっており、このような身体面での困難さは、交通事故で家族を亡くした子どもにとっては、起きやすいことと考えられる。

図表 6-6-1 事故後に感じた身体面での困難さ



また、自由記述からは、主に以下のような意見がみられている。

#### 【眠れなくなった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・父が亡くなったため、元々働いていた母だったが残業するようになり、帰宅は深夜になることが多かった。母の帰宅の足音が聞こえるまで眠ることができなかった。小学生のときから睡眠不足でよく寝坊をしていた。	女性	20代	5	父親
・眠れなくなった。精神的に追い詰められる感じがした。全ての責任を負わなければいけなくなり、母と姉の面倒を見ないといけなくなりきつかった(今も)。	女性	30代	15	父親
・事故を見ていないのに、夢で何度も疑似体験をしてしまうので、眠るのが怖くなり、あまり眠れなくなった。	女性	20代	16	父親
・兄が亡くなって少しの間、兄が死んでしまう夢をたまに見ていて、それが怖くて寝れないときがありました。	男性	20代	17	兄
・ふと兄の事を一人で考えると今でも悲しい気持ちがよみがえってきます。寝る時に考えてしまって寝れない事は何度もありました。	女性	20代	15	兄
・ふとその事を考えて、早く眠りたいのに涙が流れて寝れなかったり、次の日頭痛がしたりということがありました。	女性	20代	1	父親

【気力や意欲、物事への関心がなくなった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・食べて寂しさを紛らわすようになったり、幼稚園や学校へ行くのがすごく嫌でずる休みするようになった。空想に耽るようになった。	女性	30代	5	父親
・将来について考えることが億劫になってしまった。	女性	30代	16	母親
・感情が欠落したような感じになった。病気になった。	女性	20代	17	兄
・学校に行けなくなった。	女性	30代	17	弟
・とにかく世の中の報われなさを嘆いてしまうような傾向がみられる。	男性	20代	16	父親
・とても空虚な、心が抜け殻のような気分になったのを覚えています。	男性	20代	8	弟

【体調が悪くなった】

記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・嘔吐がつづいた。	男性	20代	16	兄
・父を事故で亡くしてしばらくは胃が痛くて食欲がなくなり、少し痩せた。	女性	20代	14	父親
・頻回に頭痛が起きた。	女性	20代	17	妹
・摂食障害等で、痩せた。	女性	20代	17	兄
・何もしなくても息をするのが困難になって、苦しくなることがあった。	女性	10代	6	妹
・下痢が続いた。	男性	20代	16	兄
・パニック障害の症状で、動悸などが頻繁に起きた。	女性	20代	14	父親
・しばらく、突然、過呼吸状態になることがよくあった。	女性	20代	14	弟

【強い疲労感があった】

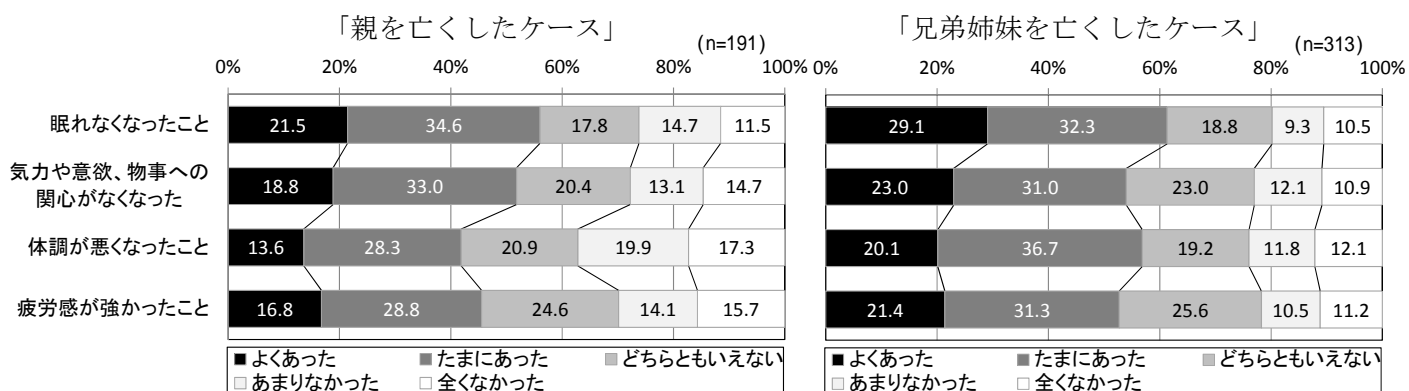
記述内容	性別	年齢 (現在)	年齢 (事故当時)	亡くなった 家族
・全てどうでも良くなった。夜寝る時は事故の事や兄の事を思い出し、忘れちゃダメなんだろうと思っても周りに心配かけないように声を出さないように泣いて、いつも平気な顔していました。だから疲れていました。いつも1人になりたかったり、でも誰かと一緒に居たかったり自分の気持ちがわかりませんでした。	女性	20代	15	兄
・気持ちが疲れていたからか、体を動かしても食欲があまり湧かない事がありました。何をしても疲れやすく気持ちも落ちやすい状況でした。あまり学校以外で出かけることが減っていました。そのような気持ちが湧かなかったと思います。	男性	20代	17	弟
・疲労感はずっとありました。	女性	20代	16	母親



## (2) 身体面の困難さ(亡くした家族別)

亡くした家族別では、感じた身体面での困難さに顕著な差異はみられていないが、兄弟姉妹を亡くしたほうが、「よくあった」と回答する傾向にある。特に「眠れなくなったこと」「気力や意欲、物事への関心がなくなった」といった項目に「よくあった」の回答が兄弟姉妹を亡くしたケースにおいて、多い傾向にある。また「体調が悪くなったこと」については、兄弟姉妹を亡くしたケースで「あった」とする回答(「よくあった」「たまにあった」の合計)が6割弱となっており、やや多い傾向にある。

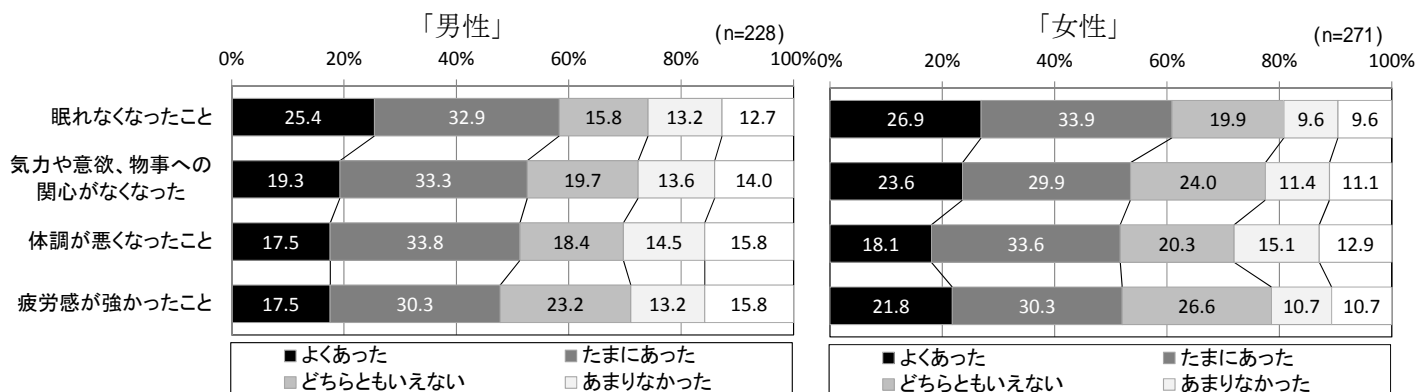
図表 6-6-2 事故後に感じた身体面での困難さ(亡くした家族別)



## (3) 身体面の困難さ(男女別)

男女別では、感じた身体面での困難さに顕著な差異はみられていない。

図表 6-6-3 事故後に感じた身体面での困難さ(男女別)



#### (4) 身体面の困難さ (事故時の就学状況別)

事故時の就学状況別の分析では、学年が上がるにつれて、感じた身体面の困難さは「よくあった」とする回答が多くなっている。これは、学年の上昇につれて（特に中学校や高校）、身体面での困難さが生じやすいことも考えられるが、年齢の上昇とともにそのような変化を記憶できるようになったことを反映している可能性もある。また、「小学校低学年」で「眠れなくなったことがよくあった」とする回答が、3割強にのぼっており、やや多い傾向にある。小学校低学年の時期は、幼児期と異なり、現実を認識できるようになってくる頃であり、そのころにこのようなショックな出来事が起こることで、眠れないことが起きやすい可能性が考えられる。なお、本調査は回答者の事故時の学齢が高くなるほど、事故からの経過期間が短くなる傾向にあるため解釈には注意が必要である（資料1. 属性と事故時年齢等の平均値参照）。

図表 6-6-4 事故後に感じた身体面での困難さ (事故時の就学状況別)

